

薩摩川内市に
「いてよかった！来て良かった！」
と思えるまちを目指して。

—全国でも珍しい、異業種の中小企業が
加入し構成している事業協同組合
薩摩川内市企業連携協議会の取り組み—



宮里 敏郎

事業協同組合薩摩川内市企業連携協議会
事務局長

要 旨

薩摩川内市企業連携協議会は、企業間の意見交換、技術提携など共に連携できる環境をつくり、市内企業及び市経済の発展、雇用の拡大を図ることを目的に、平成25年11月に薩摩川内市内の中小企業70社が参加し任意団体として設立されました。その後、取り組んだ事業をさらに共同事業として発展させると共に、運営機能の強化・高度化を図るために、平成30年10月に事業協同組合に法人化しました。

当企連協は全国でも珍しい異業種の中小企業で組織される組合で、現在薩摩川内市内の141社が加入しています。企連協の任意団体設立時から代表をしている田中博氏（㈱岡野エレクトロニクス代表取締役社長）の熱い思いから「薩摩川内市にいてよかった！来て良かった！」をキャッチフレーズに様々な事業を展開しています。

企連協の事業は当初の「共同求人事業」「共同販売事業」「教育情報事業」に加え、令和3年9月には外国人技能実習生監理団体の許可を受け、「実習生の共同受入事業」も行っています。

「共同求人事業」では、市内高校生・大学生への合同企業説明会や地元企業見学会、近隣市町を含む高校や大学の進路指導担当者と会員企業との情報交換会、市民や小学生・中学生に地元企業を紹介するイベント「お仕事博覧会」の開催、中学生を対象としたキャリア教育事業の実施、FMラジオ放送での情報提供番組「企業のチカラメイドイン薩摩川内」などを、「共同販売事業」では企業が連携し共同開発した製品の販売、企業の取扱い製品等の販売、全国的な展示会への出展支援、企業間連携の促進、プロスポーツの合宿誘致、独自の製品展示会開催などを、「教育情報事業」では、組合員の要望に応じた各種セミナーの開催、メルマガを活用した各種情報の提供、業務提携のための会員交流会の開催などを、「外国人技能実習生共同受入事業」では、実施者となる会員企業へ令和4年7月に第1期生3名の受け入れをしています。

また会員同士で情報交換し、問題解決を図ることなどを目的に雇用労務改善部会、地域創造発信部会、人材育成部会、広報部会、ICT導入部会、現場改善部会、ものづくりアカデミー推進部会、竹バイオマス部会の8つの部会を設置し、異業種での部員構成の中で、様々な意見交換、勉強会、ミニセミナーなど実施しています。

当協議会は薩摩川内市内の中小企業が加入する組合です。会員企業の生産性を向上させていくためには各企業の強みを生かし、弱みをカバーする連携が重要です。企連協ではそのための支援を行い「薩摩川内市にいてよかった！来て良かった！」と思えるような活動を展開してまいります。さらに近隣市町とも連携し、広域で経済活動が活性化できるよう活動を拡大していきます。

◀01 任意団体から全国でも珍しい異業種の事業協同組合へ

薩摩川内市では地域経済を発展させ、地元雇用を図るために企業誘致に力を入れてきており、これまで各種優遇制度により京セラ株式会社川内工場、中越パルプ工業株式会社川内工場をはじめ約60社を誘致してきました。しかしながら近年では企業の地方への進出は厳しく、これからは誘致企業も含めた地元企業が連携し、地域経済を活性化させる「内発型産業振興」を展開していく必要があります。そこで市では、企業間の意見交換、技術提携など共に連携できる環境をつくり、市内企業及び市経済の発展、雇用の拡大を図ることを目的に、平成25年11月に市内中小企業70社が参加した任意団体として「薩摩川内市企業連携協議会」を設立しました。

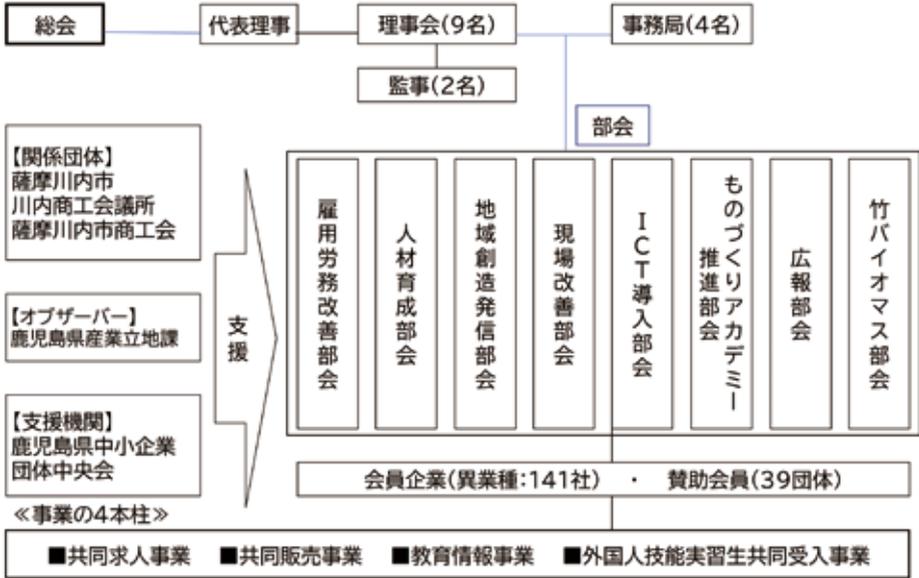
任意団体としての活動では、講演会や交流会、技術提携を目的とした企業見学会、先進企業視察、学校と企業の情報交換会の実施、さらにはリーディングプロジェクトとして、会員企業18社と大学、高校が連携した独立電源型LED街路灯（通称スマコミライト）を開発・製造し、市内に120基設置しました。

取り組んだ事業をさらに共同事業として発展させると共に、運営機能の強化・高度化を図るために、平成30年10月には異業種が加入する全国でも珍しい事業協同組合に法人化し、現在141社が加入しています。また賛助会員として大企業を含め公的機関、学校法人、医療福祉法人など39団体も加入しています。

企連協の任意団体設立時から代表をしている田中博氏（㈱岡野エレクトロニクス代表取締役社長）の熱い思いから、みんなが「薩摩川内市にいてよかった!来て良かった!」と思えるまちを目指して積極的な事業を展開しています。

事業協同組合としての企連協の事業は、法人化当初は「共同求人事業」「共同販売事業」「教育情報事業」でしたが、令和3年9月には外国人技能実習生監理団体の許可を受け、「外国人技能実習生共同受入事業」も行っています。これが事業の4本柱です。

組織図



《02 取り組み事業の紹介

(1) 共同求人事業

企連協の取り組みを事業ごとに紹介します。まず共同求人事業です。

中小企業では単独での求人活動には限界があります。しかしながら中小企業であればあるほど、学生や市民にその存在を周知しなければ人材確保はできません。そこで企連協では次のコンセプトに分けて積極的に会員企業を紹介しています。

| 高校生・大学生に対して | |
|-------------|-------------------------|
| ○企業見学会 | 生徒等が企業を訪問し、直接事業内容を学びます。 |
| ○合同企業説明会 | 企業が生徒等に対し直接会社概要を説明します。 |

| 高校・大学等の進路指導担当者に対して | |
|----------------------|--------------------------------|
| ○学校と企業の情報交換会 | 企業の人事担当者と学校の進路指導担当者が直接情報交換します。 |
| ○企業見学会 | 学校の進路指導担当者が直接企業を見学し、事業内容を学びます。 |
| 市民（保護者）、小・中学生に対して | |
| ○企業紹介イベントの開催 | 企業のPRイベント（展示会）を開催します。 |
| ○企業PR動画の配信 | 企業のPR動画を作成し配信します。 |
| ○中学生のキャリア教育 | 企業から講師を派遣し職業講話等によるキャリア教育を行います。 |
| 移定住促進とあわせてUターン者の確保促進 | |

具体的に取り組みの内容を紹介します。

ア. 合同企業説明会

市内及び近郊の企業が一堂にサンアリーナせんだい（市体育館）に集まり、市内及び近隣の高校生・大学生に参加してもらい、企業の担当者による説明会を実施しています。薩摩川内市が主催で行いますが、関係団体として企連協も運営に協力しています。令和4年3月の開催では、60社が出席し、生徒・学生約500人が参加しました。



イ. 学校と企業の情報交換会

近隣市町を含む高校・大学等の進路指導担当者と会員企業が求人情報や学生の動向などについて情報交換します。令和4年6月の開催では32社と19校が参加しました。



ウ. 企業見学会

市内の高校生・大学生が学校ごとに直接会員企業を訪問します。訪問先は

学校で希望を取り、関心の高い企業を見学し、仕事内容等の説明を受けます。毎年市内の3高校と2大学校を対象に実施しています。また進路指導担当者による企業見学会も実施します。

エ. キャリア教育事業

市内の中学生を対象に授業の中で会員企業の社員が講師となり、企業の紹介をするとともに、仕事のやりがいや働くことの意義、大切さを伝え、将来のつきたい職業について考える機会を与えています。



オ. お仕事博覧会

市民の方々に広く会員企業を知ってもらい、身近に感じていただくことで企業製品の販売促進、サービスの利用促進と併せて地元企業への就職促進を図ります。まず地元の企業を地元の皆さんによく知ってもらうことが地元人材確保への一番の決め手となると考えています。



カ. FMラジオ番組「企業のチカラ メイドイン薩摩川内」

地元のコミュニティFM放送で、毎週木曜日夕方6時から30分の番組に会員企業が出演し、事業内容や社内イベント等の紹介をしています。年間約40社が出演しています。



キ. 企業PR動画作成

企業を紹介するためにはPR動画は不可欠なものです。しかしながら中小企業ではその作成も課題の一つです。企連協では会員企業のメンバーで撮影編集を行い、PR動画を作成する事業も実施しています。これまでに10社の動画を作成しています。

ク. Uターン者確保事業

地元求人に加え、大都市圏からの転職者確保のために、福岡、東京での転職フェアに企連協として出展し、会員企業の求人情報を紹介しています。また薩摩川内市の移定住施策も紹介し、転入・転職者確保に努めています。

(2) 共同販売事業

2つ目の事業は、共同販売事業です。

企連協では会員企業が製造もしくは取り扱っている製品等の共同販売を行っています。共同販売では販売手数料をもらうこととし、これが企連協の活動財源にもなります。

ア. 会員企業製品の共同販売

リーディングプロジェクトとして、会員企業18社と市内大学高校2校が開発製造している独立電源型LED街路灯「スマコミライト」を共同販売し、市内外に約350基設置しました。このライトは市が実施した市民アンケートから、「街灯がなく暗いところがある、停電時に暗くて不安」といった声をもとに共同開発した製品です。また防災製品の共同販売も行なっています。会員企業と関連企業、薩摩川内市が実証実験して開発した防災マットや、浸水を防ぐ止水板など共同販売しています。このほか食品加工会社の商品の共同販売や高性能ライトなどの販売も行っています。



イ. スポーツ合宿誘致

女子プロサッカーチームの合宿を誘致しています。これにより宿泊先となるホテルや弁当を取り扱う企業、送迎を行う企業などの販売促進につながります。またプロのチームと地元チームが交流できることで、地元の若い選手たちに刺激と夢を与えることもできます。



ウ. 製品展示会への出展

製造関係、食品関係の全国規模の展示会に出展し、販路開拓、新規取引拡大につなげられるよう会員企業を支援しています。

エ. 防災減災対策展示会の開催

スマコミライトなど会員企業が製造もしくは取り扱っている防災関連製品の販売を促進するとともに、市民の皆さんの災害に対する不安を少しでも解消できるよう、令和4年7月鹿児島県内初となる「防災・減災対策フェア in 薩摩川内」を全国から関連企業22社が参加して開催しました。2日間で約550名の来場がありました。豪雨、台風、地震など全国で毎年のように大災害が発生している中、自治体からの参加者も多く、高い関心が寄せられています。



オ. 企業間連携（事業マッチング）事業

中小企業はそれぞれが優れた技術を持っています。それらを連携することで単体企業では受注できない、製造できない製品も開発・製造・販売することが可能となります。そのための事業連携は不可欠です。スマコミライトに続く、第2、第3弾の製品開発のために、企業同士が情報交換し、連携する取り組みを支援しています。

（3）教育情報事業

3つ目の事業は教育情報事業です。会員企業へ市からの情報をはじめ様々な情報をタイムリーに伝えるとともに、企業にとって必要なセミナーの開催や独自の研修会などを実施しています。また異業種間の連携という企連協の特徴を最大限に生かしながら、各企業の強みを生かし弱みを補うことを目的に部会を設置しており、異業種の企業が参加することで様々な意見やアイデアが出され、活発な活動を展開しています。

ア. メルマガによる情報発信

企連協ではメールマガジンでタイムリーに会員企業に情報を発信できる体制を整えています。国や鹿児島県、薩摩川内市、関係団体からの各種補助・

支援制度等の情報や新型コロナウイルス関連の情報などを随時発信しています。また企連協の事業についても随時情報発信し、情報の共有を図っています。毎年約120回発信しています。

イ. セミナー・研修会の開催

企業の実情に応じたテーマを設定し、国の補助を活用し年3回の生産性向上支援訓練セミナーを開催しています。また会員企業の要望に応じて女性活躍セミナーや中途採用手法セミナー、知的財産権研修、産業廃棄物研修、イクボスセミナーなど多種多様な研修会も実施しているほか、毎年新入社員を対象とした新入社員研修・フォローアップ研修も開催しています。令和4年4月の新入社員研修には15社52名が参加しました。



ウ. 会員交流

企業間の連携のためには何よりも交流が大事です。総会や新年会、スポーツ交流活動等とおして企業がお互いの事業内容を理解し合えることにより、企業間での新たな取引展開、ビジネスマッチングが展開できるよう交流の場を提供しています。

エ. 部会

異業種の連携という企連協の特徴を最大限に生かし、企業連携と課題解決を目指すために8つの部会を設置しています。希望する会員企業が参加、いずれも担当理事を配置し、部会長を選任し効果的な運営を行っています。部会で協議した内容については、他の会員企業にも活用できるよう展開しています。部会ごとに取り組み内容を紹介します。

(ア) 雇用労務改善部会

雇用労務に関する企業の課題を研究し、適切な労務管理で働きやすい職場環境の構築を目指しています。企業でありがちな採用時のトラブル、退職時のトラブルを防ぐために、会社として整えておくべき書類や様々な事例に対応するための手順等を整理した「採用・入社・退職マ



ニュアル」を部会メンバーで作成し、会員企業に提供しています。またセクハラ・パワハラセミナーや人事評価研修会など雇用労務に関する勉強会を会員企業に呼びかけながら実施しています。

(イ) 地域創造発信部会

フェイスブックの活用やYouTubeなどの媒体を活用した、業績アップにつながるような企業の魅力を発信する方法を研究するとともに、地域の情報も発信しています。企連協でYouTubeなどのページを立ち上げ、各企業の情報も発信しています。

(ウ) 人材育成部会

企業の人材育成に必要なセミナー、中堅社員研修会などを実施しています。また企業にとって必要な知識を学ぶため、産業廃棄物研修や知的財産権研修、女性活躍研修なども行っています。

(エ) 広報部会

年3回組合広報誌を発行しています。会員企業を取材訪問し、その内容も掲載、企業PRも積極的に行います。

(オ) ICT導入部会

この部会には大学からも専門の先生が参加し、独自の製品開発をしています。スマコミライトから電源をとり、学校教材用として気象情報をリアルタイムに取得できるスマート百葉箱を研究・開発しました。さらに災害対応機材としてリアルタイムで画像を送信できる機材なども開発し、今後商品化を進めていきます。

(カ) 現場改善部会

会員企業を実際に現地視察し、安全確保や作業効率性について協議し、生産性向上を目指します。企業からの要望に応じ、改善提案も行ない作業効率のアップを図っています。

(キ) ものづくりアカデミー推進部会

市内小学生を対象に、「薩摩川内市少年少女発明クラブ」を立ち上げ、運営しています。会員企業が講師となり、子供たちがモノづくりに関心を持ってもらえるよう、木工、電気、モーター、ロケットなどの活動をとおして、モ



ノづくりの楽しさ、大切さを伝えています。

(ク) 竹バイオマス部会

当地域は竹林が多く、竹の利活用が課題となっています。市とも共同しながら竹の有効活用について協議・研究しています。

(4) 外国人技能実習生共同受入事業

4本目の事業が外国人技能実習生共同受入事業です。

企業から実習生受入の要望があり、令和3年9月に監理団体の許可を取得しました。企業にとって技能実習生の受け入れを行うことは、向上心旺盛な若者による企業の活性化が図られる、現場の改善や生産性の向上が見込める、優秀な人材を安定して受け入れることができるなどのメリットがあります。現在2企業がベトナム人3名を受け入れています。今後も希望する企業について支援していきます。

◀ 03 今後の展望

薩摩川内市企業連携協議会は全国でも珍しい異業種の中小企業が加入している組合です。地域経済を支えている地元中小企業がさらに経営力を強化し、生産性を向上させていくには、それぞれの企業の強みをさらに生かし、弱みをカバーしていくための様々な連携が重要です。会員企業が連携して共同求人、共同販売、共同研究・開発を行うことで、さらに生産性を向上させなければなりません。企連協はその活動を支援していきます。

全国の99%は中小企業であり、その中小企業が活性化することが地域を活性化することに繋がることは言うまでもありません。企連協は今後も「薩摩川内市にいてよかった!来て良かった!」と思ってもらえるよう積極的な活動を展開してまいります。

さらに近隣市町、近隣企業へも呼びかけ、この取り組みを広域的なものとし、さらに幅広い連携で「この地域にいてよかった!来て良かった!」と思ってもらえるよう地域全体の活性化を目指して活動していきます。